

令和2年度 県立学校における「コミュニティ・スクール」連絡会 実施報告書

- 1 日時 令和2年10月23日(金) 13:30~16:30
- 2 会場 県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 県立学校教職員等 計 32名
- 4 内容 13:30~13:35 開会
13:35~13:45 説明「社会に開かれた教育課程」の実現のために
13:45~15:15 講演「県立学校における『コミュニティ・スクール』の推進」
文部科学省CSマイスター 増淵 広美
15:25~16:25 情報交換
16:25~16:30 閉会

5 講演概要

- ・ 増淵先生が校長として勤めた神奈川県立市ヶ尾高等学校でコミュニティ・スクールを導入した実践例を基に講演いただいた。
- ・ 高等学校における「地域」というのは、小・中学校のような「地域」の考え方は取組が難しく、ゆるやかな「地域」の概念として、「地域コミュニティ」と「テーマコミュニティ」を学校の特性に合わせてバランス良く考えることで、その学校らしさを創ることができた。
- ・ 中高生が主体となった「市ヶ尾ユースプロジェクト」(まちの未来づくりプログラム)という、区役所やNPO法人が連携・協働してまちの課題を解決し魅力アップにつなげる取組を具体的に説明いただいた。
- ・ コミュニティ・スクール推進のポイントとして3点示していただいた。①人材(学校運営協議会委員構成、教職員の意識改革、保護者の方、地域のキーパーソン)②校外(ネットワーク、開かれた学校)③校内(校内組織体制、取組の位置付け、生徒の変容の把握)
- ・ 組織体制では、職員自身が得意とする部分を生かすために担当職員を公募することとし、職員の理解と同僚性を広げることができた。
- ・ 生徒会活動、部活動に属さない継続的な活動を「特別教育プログラム」として教育活動の中へ明確に位置付けた。
- ・ コミュニティ・スクール導入後の成果として3点示していただいた。①学校運営協議会で委員から様々な意見をいただくことで学校経営力の強化につながった。②多世代交流をととした地域課題解決型学習の実現や社会で活躍された人材の協力により、「総合的な探究の時間」のプログラムなど教育活動の充実が図られた。③「地域とともにある学校」として、学校・地域・保護者の連携の強化につながった。
- ・ コミュニティ・スクールだからできたこととして、生徒は活動を通じて本物と出会い、達成感・自己肯定感が高まった。学校は、経営力が向上し、関係機関とのつながりが深まった。そして、地域や保護者が身近な存在になった。また、学校の活動を地域に対して情報発信することで、保護者も、地域が子どもたちを育ててくれるという感謝の気持ちをもつようになった。
- ・ 本年度開校した神奈川県立あおば支援学校の取組について、学校運営協議会部会の内容や地域と進める教育活動など地域とともにある学校を意識した取組について紹介していただいた。
- ・ 専門高校、総合学科高校、普通科高校のそれぞれの学校や地域の特色を生かすことでコミュニティ・スクールとしての取組が学校の新たな特色や魅力になる。今までやってきたことは「宝」であり、さらに磨くことによって学校の魅力アップにつながる。
- ・ 「できたらいいなあ」と思うことを地域と協働で実施し、学校運営協議会の熟議で実践の見直しや精選していくことも大切である。
- ・ 「学校運営協議会は学校の心強いパートナーであり、コミュニティ・スクールのもつ可能性は無限大である」と最後に参加者に向けたメッセージをいただいた。



6 情報交換の概要

- ・ CS設置校とCS設置予定校に分かれて、現在の各学校での「取組概要」、「課題」、「今後の展望」について、情報共有した。
- ・ 他校の取組を聞き、同じような悩みや課題を共有する機会となった。
- ・ 各校からの出された悩みや課題に対してCSマイスターから指導助言をいただいた。

7 感想

- ・ 「コミュニティ・スクールの推進」について具体的な高校の実践が聞けて参考になった。
- ・ 「一歩踏み出せばどうにかなる」という言葉を聞き、安心感を得られた。
- ・ コミュニティ・スクールのイメージを少し明確にすることができた。
- ・ 貴重な話を聞かせていただいたので、本校でのCSのあり方について具体的に検討を進めたい。
- ・ 学校運営協議会委員の構成やコミュニティ・スクールの設置に向けての考えが深まった。
- ・ どのように地域を巻き込むか、イメージが湧いてきた。
- ・ コミュニティ・スクールを推進していくには、実践だけでなく、精査とブラッシュアップの必要性を感じた。

